



ボディコートは日本での ITER プロジェクトの取り組みを強化

2008 年 7 月 22 日

名古屋 – イギリスに本社を置く、世界最大手の熱処理加工業者であるボディコートplcは、国際熱核融合実験炉(ITER)に関連した今後の事業のための受注を日本で開始した。

ITER(イーター)は核融合電力の実行可能性を実験するための国際研究プロジェクトです。装置は水素同位体を磁場に閉じ込め約一億℃で加熱します。この温度処理で水素は融合してヘリウムを形成し、中性子とエネルギーを発生します。ITERは核分裂に加え原子力の第2の主要提供者となるでしょう。炉を太陽の中心と同じくらいの熱のガスから守る為にITERの中にあるブランケット系等の必須部品は熱間静水圧プレス(HIP処理)が必要です。

「ボディコートは世界第一の HIP サービス提供社であるため、場所に関わらず全ての ITER 供給業者へ最先端の技術を提供する事は当然です。」と研究開発科の国際責任者スティーブン J.マッシュル博士は述べています。「2013年には HIP 処理の開始を予定しており、継続的、国際的な試行開発に取り組んでいます。ボディコートは ITER の製品化に向けてこの後10年から20年間という長期的なコミットメントを実施しています。」

「日本政府は ITER プロジェクトの第一の後援者であり、ボディコート・ジャパン株式会社は日本の製造業者の熱処理ニーズに常に対応出来る様日々努力しております。」と日本法人・代表取締役のジュリアン・ベイショアは述べています。「当社はまた HIP 処理を韓国と中国の ITER 供給業者にも提供する予定です。」ボディコート・ジャパン株式会社は2008年3月に設立され、大変新しい飛躍であります。ボディコートの ITER への参加は ボディコート Europe とボディコート U.S.が HIP 処理から初のウォールブランケットモジュール生産まで共同で進めている頃の1995年に遡ります。

ボディコートについて

1923年創業のボディコートplcは、世界35カ国の300以上の企業に一流の冶金サービスを提供しています。また、イギリスのマックルズフィールドに本社のあるボディコート社は、材質試験サービスも実施しています。2007年度の売上高は10億米ドルを超えました。ボディコート・ジャパン株式会社は名古屋市を拠点としています。詳細はwww.bodycote.co.jpをご覧ください。

連絡先:

ボディコート・ジャパン株式会社
代表取締役
ジュリアン・ベイショア

〒451-6040 愛知県名古屋市西区牛島町6番1号
名古屋ルーセントタワー40階
ボディコート・ジャパン株式会社
熱処理受託加工事業部
Tel: 052-912-5518 Fax: 052-569-1590
メール: japan.sales@bodycote.com
HP: <http://www.bodycote.co.jp>



ワシントン州カマスに有るこの直径 1.63 メートルの HIP ユニットは、ITER プロジェクトの部品を効率の良い方法で処理する為に必要な巨大で精巧な装置の実例です。



(a)



(b)

前部 (a)と後部 (b)は、ITER の初のウォールブランケットモジュールの為の SUS316LN ステンレススチール基盤です。この部品は約 4500 キロあり、呼び寸法は 2000x900x500mm です。この部品は HIP PM ニアネットシェーブ成型の名で知られているボディコート HIP グループの技術で生産されました。これは板金を使った複雑なカプセルのデザインと製作の技術を伴います。複雑な内蔵冷却ギャラリーはカプセルデザインに組み込まれた管内に取り付けられています。組み立てられたカプセル部品は制御された 316LN 粉が注がれ、密閉され、完全密度まで熱静水圧されます。カプセルが取り除かれた後、部品は仕上げ加工され、中間層の銅合金とベリリウムタイルを塗布して被覆加工されます。カプセルデザイン、模造、注入、熱静水圧プレスは全て弊社スウェーデン工場(スラハマー市)で行われました。

写真提供: http://www.efda.org/the_iter_project/project-blanket_module.htm